



船越小学校閉校式・閉校記念式典

明治から令和 5つの時代を歩んだ小学校 148年の歴史に幕



式辞を述べる石川修司校長

明治8年、船越小学校は海蔵寺を仮校舎に船越学校として開校しました。以後、改編を重ねて、昭和30年に現在の山田町立船越小学校に改称されました。同校は、幾度か津波被害に見舞われていて、平成23年の東日本大震災大津波では校舎が全壊。「子どもたちは

148年の歴史に幕

長きにわたる歴史の中で地域のコミュニティの中心として在り続けた船越小学校——。3月31日をもって閉校し、148年の歴史に幕を下ろしました。3月23日には、船越小学校の閉校式・閉校記念式典が執り行われ、在校児童や学校関係者、地域住民などが出席し、慣れ親しんだ学校との別れを惜しみました。ここでは、船越小学校の歴史と閉校式・閉校記念式典の様子をお伝えします。

のため一刻も早く再建してほしい」との地域の熱い思いから、3年後の平成26年4月には校舎が再建され、被災地で1番早く復旧が完了した学校となりました。

◇船越小学校の歴史

年 月	主な出来事
明治8年9月	船越学校開校
明治29年6月	明治三陸大津波で校舎被災
昭和22年4月	船越小学校と称する
昭和30年3月	町村合併で山田町立船越小学校と改称
平成23年3月	東日本大震災で校舎が被災
平成23年4月	陸中海岸青少年の家で仮校舎開設
平成26年4月	新校舎が完成し学校活動を再開
令和6年3月	山田小学校へ統合のため閉校

海や山などの美しい風景と地域の人たちの愛情に包まれ多くの人材を育んできた同校。船越地区コミュニティの中心として長年存在し、これまで5245人の卒業生を輩出してきました。多いときには700人以上の児童が在校していましたが、人口減少などの影響で令和5年度には全校児童が66人となり、山田小学校への統合が決定。令和6年3月31日をもって148年の歴史に幕を下ろしました。

閉校式・閉校記念式典

同校の閉校式は3月23日に行われ、児童や教職員、保護者など約170人が参加しました。開校から令和までの148年間の長い歴史の中、繋いできた伝統が終わりを迎えます。地域や保護者の皆さんが、子どもたちの幸せを願いながら大事に育んできた船越の伝統があったからこそ築かれたものと思います。船越小学校の子どもたちには自分の大きな夢に向かって前に進んでほしいです」と挨拶。その後、在校生を代表して児童会長の荒



①全校児童が「明日へ」を合唱②昭和40年頃の船越小学校③東日本大震災被災前の同校④閉校時の同校⑤閉校式会場の入口⑥学校への感謝を述べる荒川蒼太さん⑦石川校長から佐藤町長へ校旗返納⑧感謝状を贈呈された地域の皆さん⑨船小ソーラン⑩同校を卒業した中学生らによる鼓笛演奏⑪校歌を斉唱する児童⑫教室で最後の学級時間⑬友人と記念に写真撮影⑭卒業生と先生で記念撮影

閉校式の参加者からひとこと



田代修三さん(船越・68歳)

船小の伝統を胸に頑張してほしい

小学校が閉校するのはとても寂しいです。小学校に28年間携わり、地引き網体験や定置網体験など船小ならではの漁業体験で子どもたちの成長を見るのが楽しみでした。小学校は閉校してしまいましたが、子どもたちには船小の伝統を胸にこれからも頑張してほしいです。



後藤夕香里さん(船越・69歳)

船小に感謝しています

子どもたちと一緒に砂の造形に取り組んだことや児童の鼓笛隊による地域安全パレードに参加したことを今でも思い出します。地域交流の中心にあった小学校の閉校は言葉にできないほど悲しい気持ちですが、たくさんの思い出をくれた小学校に感謝しています。



菊地みち子さん(船越・67歳)

船小を語り継いでいきたい

楽しそうに過ごしている子どもたちの姿にいつも元気をもらっていました。中でもはんとんを着た船小ソーランは別格で、見ていると私も踊りたくなります。地域の伝統が詰まった学校が閉校するのは寂しいですが、地域のみみなで船小を語り継いでいきたいです。

川蒼太さん(当時6年生)が「校舎から美しい船越湾を見て、前向きな気持ちになれるこの景色が大好きです。船越小学校で過ごした6年間は僕にとってかけがえない時間でした。148年間ありがとう」と学校への感謝の気持ちを述べました。

最後には、校旗返納が行われ、これまで長きにわたり学校の歩みを見守ってきた同校の校旗が石川校長から佐藤町長へ手渡されました。

続いて行われた実行委員会による閉校記念式典には、閉校式の参加者に加え卒業生や地域住民なども参加。総勢約300人の関係者が集まりました。

初めに、実行委員会からこれまで児童の見守り活動や校外学習でお世話になった地域の皆さんに向けて感謝状が贈呈され、その後、思い出朗読や在校児童による船小ソーラン、同校を卒業した中学生や高校生などによる鼓笛演奏などが披露され、参加者は、懐かしい当時の思い出を振り返っていました。在校生からは、震災当時の6年生が復興への思いを込めて作詞した「明日へ」が披露され、最後に、来場者全員で校歌を合唱。参加者らは、時折涙を浮かべながら、思い出が詰まった学校との別れを惜しみました。